

「第 11 回アラブ人学生歓迎プログラム ASP2012」

慶應義塾大学総合政策学部教授 奥田 敦

1. 内容

「アラブ人学生歓迎プログラム(以下 ASP)」は、アラブ諸国で日本語を学ぶアラブ人学生を約 2 週間 SFC に招聘し、研究会の活動の一環として、SFC でアラビア語を学ぶ学生たちと日本語レポート作成や日本語スキット映像の制作などを通じて行う、アラブ・イスラーム圏との学術交流プログラムである。

具体的な活動内容としては、日本語による個別の研究レポートの作成や日本語スキット映像の制作のほか、神奈川県立中央農業高等学校との交流活動、アラビア語によるディスカッション、着付けや茶道をはじめとする日本文化体験、日本語授業などが行われた。「作りながら学び、学びながら作る」というコンセプトのもと、実践的な活動の展開が、単なる相互理解にとどまらず、自分たち自身の変化への努力を通じて、互いに共有できるものを探究する契機となり、日本とアラブ、さらにはアラブ人同士の良い関係を作るプログラムとなることを目指している。

昨年度までの招聘者募集方法に加え、本年度の ASP では新たな試みとして、アラブ世界全域を対象にインターネット募集を行い、エジプトから一人の学生を招聘した。また、今年度は ASP 史上初となるヨルダンからの招聘も行った。



「現代文化探究」における日本語レポート最終発表会後の集合写真



着付けを体験するアラブ人学生

2. 目的

本プログラムの目的は、将来にわたって日本とアラブ世界との関係を国益や私益を超えて友好的に発展させることのできる人物の育成と、大学における学術交流のモデル構築である。

アラブ・イスラーム世界との信頼と友好に基づく良好な関係構築は、日本のみならず国際社会全体においても重要な課題となっている。本プログラムは、2002 年の第 1 回開催以来、新しい時代の日本とアラブ・イスラーム世界との関係のみならず、アラブ人同士の関係をも構築するプログラムとして、継続的に展開されている。

3. ASP2012 統一テーマ「アラブと踏み出す新たな一歩～実践型学術交流の挑戦～」

本年度は「アラブと踏み出す新たな一歩～実践型学術交流の挑戦～」を全体の統一テーマとした。

アラブの民主化運動や東日本大震災とその後の社会の状況を踏まえ、そこから新たな一歩を踏み出していくために、私たちが直面している問題は何か、また今何をすべきであるのかについて、プログラム全体を通じて考えた。

4. ASP2012 の概要

日時:2012 年 11 月 4 日(日)～11 月 18 日(日)

場所:慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)

参加者:

・招聘者:シリア人学生 1 名、レバノン人学生 1 名、モロッコ人学生 2 名、ヨルダン人学生 1 名、エジプト人学生 1 名(計 6 名)

・実行委員:奥田敦研究会に所属する学生27名

5. 期間中の主なプログラム内容

11月6日(火)	神奈川県立中央農業高等学校訪問・交流 奥田敦研究会 OB の一人が勤務している神奈川県立中央農業高等学校を訪問し、餅つき体験や、高校生による和太鼓演奏の鑑賞とその体験を通じて、招聘者が日本の伝統文化に触れると同時に、日本の高校生と交流する契機とした。
11月8日(木)	アラビヤ語インテンシブ1の授業に参加 SFCで行われているアラビヤ語インテンシブ1の授業に招聘者が参加し、アラビヤ語を学んで半年ほどの日本人学生と交流し、アラビヤ語学習のサポートをした。
11月9日(金) 14:45~	プレゼンテーション「アラブ人の語るアラブ世界」 奥田敦教授の講義『現代文化探究』の中で、招聘者が各自の故郷とその魅力などについて日本語でプレゼンテーションを行った。本講義の受講者(約 150 名)との質疑応答の場も設けられた。
11月9日(金) 16:30~	家庭訪問 日本人学生の家族との交流や、一人暮らしの大学生の部屋の訪問を通じて、日本の大学生の暮らしの雰囲気を感じ取る機会を設けた。
11月10日(土)	アラビヤ語ディスカッション 日本語学習者である招聘者と、アラビヤ語学習者である日本人学生が、本年度統一テーマの「挑戦」というキーワードについて、アラビヤ語を用いてグループディスカッションを行い、両者の言語を用いて結果報告をした。
11月12日(月) 11:10~	着付け体験 外部の先生をお招きし、招聘者が浴衣と着物の着付け体験をした。
11月12日(月) 14:45~	茶道体験 茶道経験者の実行委員主導で、招聘者が茶道の体験をした。
11月13日(火)	日本語授業 外国人に対する日本語教育法を研究されている重松淳元 SFC 教授をお招きし、実行委員、招聘者ともに、日本語のリズム・アクセント・イントネーションについての模擬授業を受けた。
11月16日(金)	日本語レポート最終発表会 招聘者と実行委員が協力して作成した日本語レポートの最終発表会を、奥田敦教授の講義『現代文化探究』の中で行った。各招聘者の問題関心をもとに、専門家へのインタビュー調査や日本人学生とのディスカッションなど、2 週間の様々な体験を踏まえて完成させたレポートを、招聘者が本講義の受講者(約 150 名)の前で発表した。

※週末は鎌倉旅行、東京旅行、富士旅行へ出かけた。また、上記のプログラム以外は日本人学生とアラブ人学生が協働し、日本語によるレポート作成に計 100 時間ほど取り組んだり、日本語学習者の副教材を目指した日本語スキット映像の制作を行ったりした。

6. 予算の執行

本活動の招聘者 2 名の航空券代として、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」からの助成による予算を執行する。

7. 参考資料

本プログラムの活動が掲載された Web サイト一覧:

- ・SFC CLIP (<http://sfclip.net/news2012111603>)
- ・カナロコ (<http://news.kanaloco.jp/localnews/article/1211160017/>)
- ・本年度「アラブ人学生歓迎プログラム ASP」公式 web サイト(<http://nafidha.sfc.keio.ac.jp/webASP/>)

なお、本プログラムの詳細に関する報告書を現在作成中である。

8. 謝辞

本プログラムは、2012 年度湘南藤沢学会シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金からの助成、OBOG からの寄付、学園祭の収益などによって無事に実施することができました。貴基金をはじめご支援・ご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝いたします。